

第1回目 8月30日（火）の検討ワークショップでの意見

Aチーム

現状

- ・大人があきらめている（若者に関わろうとする大人が少ない。時間がないのも一因）
- ・若者の親世代もまちづくりに十分参加できていない。
- ・何かにつけて面倒くさい
- ・自分の生活とまちづくりが結びつかない。
- ・忙しいと言われる。忙しい
- ・親がイヤイヤ自治会の役やよりあいに行っている。との子どもの声を聞く
- ・移動手段が限られている世代もいる。
- ・小中学生たちの行事が減っている。→親世代の負担感
- ・大変そうと思われている
- ・みんなで何かをしようという雰囲気が少ない
- ・個人主義になっている
- ・まちづくりは余裕のある人ができる。自分のことでいっぱい
- ・若い世代がまちづくりをどう考えるか→他が期待するものでない
- ・若者に参加してほしいという発想では進まない。
- ・世代間の交流は双方の活動がないといけない
- ・自分の住むまちに対して価値を感じられる人が少なくなっているのではないかな。
- ・既存の行事のままでは参加しにくい
- ・若い人がどのようにまちづくりに参加したらわからない人も多いのでは
- ・まちづくりの活動を知らない。

アイデア

- ・祭りのたてなおし
- ・イベント・祭りの特別感、ワクワク感、楽しい、うれしい、楽しい
- ・先生（伝える側）に参加を促す。参加の姿を見せる
- ・お試しでの参加を募ってみる？
- ・何か“得”を感じさせる？
- ・面白いとか楽しいとか感じてもらう。
- ・ちょこっと背を押すなりひっぱるなりしてみる？
- ・自分の役割を感じられる方が参加しやすいのでは→最初の一步を踏み出せる仕組みを
- ・若者じゃない人がエラそうにしない。
- ・忙しい人に頼む。あえて

- 万葉フェスタで中学生にブース任せている。平田・市辺両地区、子ども少ないので一緒イイ
- 良いところを相談できる窓口があると良い。まつりうまくやっているなどか。
- 地元の良さ探し、出す場、機会フタしてる
- まつりは大事、ガス抜き、カチカチでないものに！
- 昔からの守らなければならないものある+α
- 外から来た若い人が地域になじめる、入っていける工夫をする
- 小学生くらいからの意識づけのための工夫
- 若いお母さんの支援→仲間づくりの土台
- 堅苦しい空気を出さない。
- 子どもが楽しいことを理解してあげる。→否定しない。
- まちづくりに積極的な若者の特集するなどしてみる

Bチーム

若者のまちづくりへの参加<現状>

五個荘 防災訓練に中学生参加

○若者の意見

- ・地域でいろいろな体験をする機会を作る
- ・若者も意見を持っている。こちらから聞くこと、行くことが大事。
- ・中学校へ乗り込んで生徒会と懇談した。

○愛着心

- ・若者 地域に愛着心は持っているみたい

○興味なし

- ・まちづくりに関わっているヒマがない
- ・でてこない まちづくり事業

○主体性

- ・アイデア・計画のときから若者をまきこんでやっていく
- ・若者に任せてやらせること
- ・若者主催事業には若者が集う
- ・自分たちで企画すると熱心（JC・青年部）
- ・若者主催＝告知ツールも違っている

でてくる イベント・おまつり

○大人がしてしまう

- ・若者はおもしろいことにしか参加してこない。
- ・伝統を重んじすぎて若者に自由にさせていない
- ・若者がやりたいことと大人がしてほしいことと違う

○参加のメリット

- ・家族参加とか、自分のためになるなら参加する
- ・若者→自己実現を求めた参加

・学校の事業には参加するのに

- ・計画づくりアンケートを大人ばかりがやっている。
- ・学校の文化祭 地域と一緒ににはできない
- ・いる場所がなくて参加しなくなる傾向に